

20240216 世界の記録的猛暑、特にリスクの高い地域は？

2月の半ばとは思えぬ温暖さに戸惑いを覚えます。かつて2月は、1年の中でも最も寒さが厳しいとされ、その寒さを利用した味噌や醤油、日本酒などの仕込みを始めるのもこの時期です。気温が低いこの時期の水は、雑菌が少ないとされ、長期保存が必要な食品の仕込みには最適と考えられたのです。また、この時期に行われる行事に、寒稽古、寒修行というものがあります。極寒の中、己を限界まで追い込むことで、いかなる苦境にも耐えうる強い精神力を養うのが目的だそうです。まさに、冬は命の「きたえ」の季節でした。そんな2月というのに外体育が実に気持ちよさそうです。こんな2月があったでしょうか。久しぶりに、気候変動に関する記事をご紹介します。

(注意：これは、2023.04.28 Friの記事です。最近のものではありません。)

(CNN) 世界各地で報告されている記録的な熱波は今後ますます激しさを増し、特に準備態勢の整っていない国や地域に壊滅的な被害を及ぼす恐れがあるとする新たな研究結果が報告されました。

英ブリストル大学の大気科学者、ダン・ミッチェル教授らのチームが過去60年あまりの気温データや気候モデルを分析して、今後記録的な猛暑が起きる可能性とその場所を予想し、科学誌ネイチャーコミュニケーションに発表しました。



乾燥した土地に立つ子ども＝2021年10月、アフガニスタン・バドギス州
バーラーモルガープ地区/Hoshang Hashimi/AFP/Getty Images

チームは熱波のリスクが特に高い場所として、アフガニスタン、パプアニューギニアと、グアテマラやホンジュラス、ニカラグアを含む中米を挙げています。

ミッチェル教授によると、この3カ所はいずれも大規模な熱波に襲われる可能性が高いにもかかわらず、人口が急増して医療やエネルギー供給が

行き渡らないため、異常気象への順応性が低いと考えられます。

中でも、深刻な社会、経済問題に直面するアフガンの状況は厳しく、被害の拡大が懸念されると、同教授は指摘します。



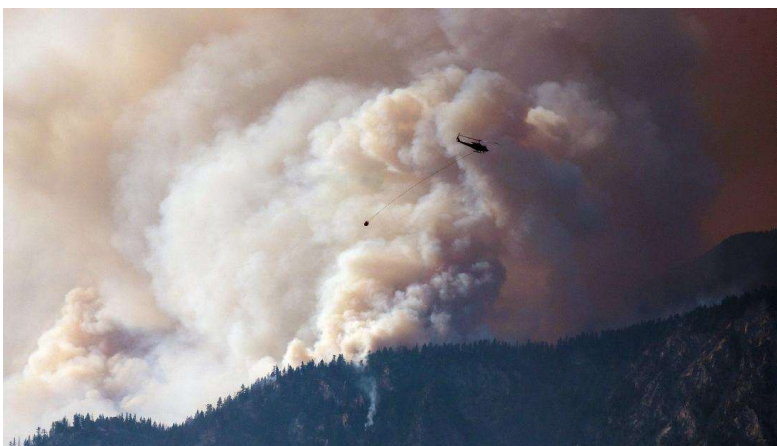
干上がった湖にある放棄されたボートの上に乗った少年=2017年5月、中米グアテマラ・アテスカテンパ湖/Marvin Recinos/AFP/Getty Images

熱波による悪影響は、大気汚染や干ばつの悪化、山火事の高発、インフラ破損など広い範囲に及びます。住民の健康被害として、恒久的な後遺症や死の恐れがある熱中症の危険性も高まります。

今年もすでに複数の地域で記録的な高温が観測されました。3月にはアルゼンチンの一部で気温が平年を10度も

上回り、4月にはアジアの広い範囲で最高気温の記録が更新されました。リスクから免れる場所はどこにもありません。研究チームが調べた地域のうち約30%が、1959～2021年の間に従来の基準から大きく外れて「統計的にあり得ない」領域に入る熱波に見舞われていました。

21年に米北西部沿岸とカナダを襲った熱波では最高気温の記録が大幅に塗り替えられ、何百人もの死者が出ました。



カナダ西部ブリティッシュコロンビア州の村リットンでは同年6月、気温が過去の最高記録を5度も上回って50度に迫り、その数日後の山火事で村のほぼ全体が消滅しました。

チームによれば、北京を含む中国の一部やドイツ、ベルギ

ーなどの欧州諸国もリスクが高いとといいます。最悪の事態に対する備えはあっても、人口密集地に深刻な影響が及ぶ恐れがあります。

研究チームは世界各国の政府に対し、過去の記録を大幅に上回る猛暑の襲来に備えて、冷房設備のあるクーリングセンターの開設や屋外労働時間の制限など対策を用意するよう呼び掛けています。